

注目記事

北日本新聞 (2011.9.6)

近畿地方を中心に大きな被害をもたらした台風12号。県内では懸念された強風や大雨はほとんどなかった。専門家は、立山連峰をはじめ岐阜、長野県境の1000〜3000メートルの山が「ついで」の役割を果たし、県内に吹き込む風と雨雲を避けたことが一因とみている。

県内被害なし

北アが雨雲ブロック

台風12号は3日、四国に上陸した後、山陰地方を通過して日本海に接近し、5日朝、県内に接近した。2日午前0時から5日午後3時までの87時間の雨量は、大垣市(岐阜)35.8ミリ、岐阜市14.9・51.1、新潟県新潟市64.1。これに対し富山では18.5ミリ、県内最多だった上市(重信)でも51.2に留まった。

富山地方気象会によると、台風は地表では反時計回りに強風が吹き込む。このため、暖かく湿った空気は風に乗り、運ばれ、台風の東側では大雨が降りやすいとされる。

県内で大きな被害が出なかったことについて、気象庁は「進路が離れていなどに加え、北アルプスの山々が南東からの強風と雨雲を阻んだ。富山県の地形特有の「ケース」効果も大きい」と分析している。

● 編集後記 ●

今年には自然災害が多く発生した年になってしまった。それも過去に例のない規模とか、想像を超えたとか、想定外という表現が使われるほど大きな災害となった。

東北地方太平洋沖地震では、これほど大きな地震が四方や日本で起きるとは想定外であったし、あのような大津波も外国での話しであり、日本では起きないものと思っていた。

7月末の新潟・福島豪雨も記録的な雨量を観測し、新潟県中越地方や福島県会津地方に河川の氾濫、堤防の決壊、土砂崩れ等の大きな被害になってしまった。また、台風12号では紀伊半島を中心に大量の雨が長時間に亘って降り続

き、その結果河川が氾濫して家屋が流され、或いは大規模な土砂崩れを誘発して道路が寸断されるなどの大きな被害となった。

これらの大災害に遭った人たちは、今まで経験したことのない、見たこともない恐ろしい状況であったと口々に話されている。

自然は、時として牙を剥き、猛威をふるい、あらゆる地物を破壊する。こうなれば人間の力は無力となってしまふ。しかし、人間には、百年規模の自然災害を全て防ぐことは不可能であるが、減災することは可能であるし、そのための対策はこれからもやっつけていかなければならない。(名取)

「測 標」第110号 (仲秋号)

平成23年10月14日発行

編集・発行 (社)日本測量協会 北陸支部
〒939-8094 富山市大泉本町 1-12-14 (測量会館内)
TEL076(422)3305・FAX076(422)3403
<http://www.jsurvey.jp>
E-mail : hokuriku@jsurvey.jp
印刷 能登印刷株式会社